

京都橘大学 人間発達学部フォーラム 21世紀の人間発達学

# 子ども・青年の ことばと発達

## 第1言語(母語)の発達と第2言語(外国語)の習得

昨今のわが国の教育では幼児から大学生まで「ことば」の教育が強調されるようになった。たしかに「ことば」のもつ記号性は他の動物には見られない人間の独自性を形づくっている。その動向は一面では人間の発達に資する可能性をもっている。また、世界を覆う通信手段の発展のなかで、「ことば」は母語(第1言語)のみならず外国語(第2言語)をも含めて子ども・青年の発達を考えさせるような時代を迎えている。このシンポジウムでは、各時期・各領域における「ことば」の発達と教育の特徴的な事実を提供しながら、幼児から大学生までの言語発達を見通してみたい。

「京の府民大学」対象講座

日時 / 2013年10月12日(土) 13:30~17:00

会場 / キャンパスプラザ京都

受講料  
無料

定員  
150名  
(先着順)

講師

西口 光一

大阪大学国際教育交流センター教授。言語文化研究科兼任、ハーバード大学東アジア言語文化部講師を経て1996年より現職。  
関西学院大学経済学部卒業。経済学士。国際基督教大学教育学研究科聴覚教育専攻修了。教育学修士。  
専門：言語心理学、日本語教育学  
主な著書：『社会と文化の中の学習と学習者』（編著、凡人社）、『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語』（日本語教科書、くろしお出版）  
主な論文：『教育』分野「日本語教育研究の回顧と展望」（『日本語教育』153号）、「言語へのパフゾンの基本的視線」（『多文化社会と留学生交流』第17号）、「接触場面における復言語習得の心理と発話」（『多文化社会と留学生交流』）ほか多数。

麻実 ゆう子

奈良女子大学文学部卒業。小学校教師を経て、ロンドン大学でヴィゴツキー理論の研究を深め、Ph.Dを取得。  
現在は、現職の先生方との研究会での研究、及び執筆活動を行っている。  
専門：教育心理学、ヴィゴツキー研究  
主な著書：『教育実践とヴィゴツキー理論—授業展開とヴィゴツキー解釈の混迷に抗して—』（一光社）、「子どもの読み及び教材の分析とヴィゴツキー理論—子どもの発話と教材、教師が行う二つの分析課題に迫る—」（一光社）。

弥永 啓子

京都橘大学人間発達学部助教。  
専門：英語教育学、第二言語習得。  
主な著書：『応用言語学事典(小池生夫編集主幹)』/『反応時間』/『語彙力と言語運用』/『付随的語彙学習メカニズム』/『語彙処理モデル』/『音韻表示』/『意味表示』/『正書法表示』、研究社、共著。  
主な論文：『読解における未知語の処理と付随的学習』/『英語リーディングの認知メカニズム』/『英単語親密度を利用した語彙力診断テストの有効性の検証—大学における日本人初～中級英語学習者の受容語彙習得レベルのより良い記述を目指して—』/『京都橘大学研究紀要』第36号など多数。

神谷 栄司

京都橘大学人間発達学部教授  
専門：保育学、幼児教育学。  
主な著書：『こっこ遊び・創造遊び・子どもの創造—保育における経験と表現の世界—』/法政出版、『幼児の世界と年間保育計画』/三学出版、『保育のためのヴィゴツキー理論』/三学出版、『未完のヴィゴツキー理論』/三学出版など。  
主な論文：『トルストイ教育論の基本構造とその諸矛盾(上)』/『大阪千代田短期大学紀要』、『ヴィゴツキー理論の発展とその時期区分について(1)』/『佛敎大学社会福祉学論集』、『情動の理論—ヴィゴツキー「まほびな」をどのように読んだのか』/『ヴィゴツキー学』など。

申込方法

電話・FAX・E-mailで受け付けます。①講座名②氏名(漢字・フリガナ)③連絡先(郵便番号・住所・電話番号)などを添えてお申し込みください。複数名でお申し込みの場合は、その旨をお知らせください。  
※受講者の個人情報は、本学の責任において受講者情報として登録・管理し、今後新しい講座のご案内など送る際に利用させていただくことがあります。予めご了承ください。

お問い合わせ・お申し込み先 京都橘大学エクステンションセンター

TEL 075-574-4186 (直通)  
FAX 075-574-4149  
E-mail aca-ext@tachibana-u.ac.jp

電話受付時間  
8:45~17:15  
(土日祝を除く)

申込受付  
8/26  
月  
より